

社会福祉実践のためのブレイクスルーセミナー

一般社団法人 認知症予防&サポート研究所アングル
〒373-0024 群馬県太田市上小林町229-1

助成事業の概要

相談支援を行う専門職を対象に医療知識、日常生活における法的な知識、福祉関連サービス利用について、横断的知識を持ち実践的活用法を集合研修により学びの機会としてセミナーを開催しました。

平成29年5月

「最近の認知症治療と受診等のあり方」 講師：医師

平成29年6月

「児童福祉サービスの現状とその支援課題」 講師：スクールソーシャルワーカー

平成29年7月

「障害者総合支援の実際と相談における課題」 講師：障害福祉事業関係者

平成29年8月

「年金保険制度の現状と手続きについて」 講師：社会保険労務士等

平成29年9月

「民間保険サービスの傾向と活用の実際」 講師：ファイナンシャルプランナー等

平成29年10月

「事例を通じた相続の理解」 講師：弁護士

平成29年11月

「現代社会における家族法の理解」 講師：弁護士

平成29年12月

「事例検討」 講師：社会福祉士

平成30年1月

「ソーシャルワーク視点に基づく相談援助の理

解」 講師：社会福祉士

平成30年2月

「医療、介護関連法の改正についてのグループディスカッション」 講師：社会福祉士

平成30年3月

「地域包括ケアシステムの理解と全体のまとめ」 講師：社会福祉士、主催者

事業の成果

相談支援職の多くは、所属先で求められた役割を実行していくために必要な制度、政策の知識を深めていくことが日々重要なものとなっています。しかしながら、来談者が抱える生活課題は1つであるとはいえません。こうした背景を踏まえて多分野に及ぶセミナー内容を実施いたしました。参加者の終了後の声として、高齢者支援のみならず、障害者や児童など日常の仕事に関わることのない分野の情報も大切であることが分かったというものや、実際の仕事をしている中の相談ですぐに来談者への情報提供につながったなどいただくことができました。

昨年、厚生労働省の社会保障審議会福祉部会では、「ソーシャルワークの機能」に期待する機能について意見集約し、情報を発信しておりますが、今回のセミナーはそのソーシャルワークに期待される点として、「複合的課題を抱える事例に対して、分野横断的に支援を必要とする人々を取り巻く環境や地域社会に働きかけ、多様な社会資源を活用・開発していくソーシャルワークの機能がますます必要になってきている。」とされ、さらに

は、こうした取り組みに必要とされる人材に求めるのは、「地域包括支援体制に資する人材には、コーディネート力、連携力、開発力、コミュニティ・ディベロップメント力など、それぞれの専門職、看護、医療、福祉を含めた地域の力と民生委員やボランティアをはじめとした住民の方が相互に力を発揮できるような力が求められている。」と記載がある通り、今回、私たちが実施したセミナーは、知識を深めるための機会づくりに留まらず、その深めた知識の応用や他制度との関連性などを踏まえた実践的な学習機会につなげることができたと考えます。さらには、セミナー後半において、地域包括ケアシステムや地域共生社会といった政策において、それぞれの所属先の役割を担いつつ、コーディネート役としての視点をもって職務にあたるかについて学ぶことができたと思います。

成果の広報、公表

社会福祉実践におけるブレイクスルーセミナーの事業は、2000年の社会福祉基礎構造改革から17年が経過し、各福祉制度の変革やその利用する人たちの世帯構造や生活環境等の変化が目まぐるしく過ぎている中で、相談支援を行う私たちは、制度利用の相談や調整といった入口のサポートでは生活の課題の解決はできないという大きな変化の時代に立っているものと考え、ブレイクスルーという名称を用いたセミナーを開催いたしました。

地域共生社会や地域包括ケアシステムといった政策的な取り組みの中に、最初に関わることが考えられる相談支援職が、自らの専門分野に限定することなく、生活の安定を目的とする社会保障制度について広く知識をもち、かつ地元地域の社会資源とのつながりをもつことで、相談対象者の顕在化している生活課題と将来の暮らしに必要な支

えを提供することはこれまでの社会保障制度の維持が難しい時代にはなくてはならないとセミナーを開催してさらに意識を強めるに至りました。

今後の展開

セミナー講師に、医師、弁護士、社会保険労務士、スクールソーシャルワーカー、ファイナンシャルプランナーなど、私たちの暮らしにおいて、部分的かつ必要に応じて支え手となる専門職を招聘し、それぞれの分野の実情や制度活用の道筋など講演いただきました。しかしながら、こうした専門職とはセミナーの場ではなく、日々、相談支援に従事する職種は自らの人的資源ネットワークとして確保していくべきと考えます。とはいえ、1日にして人とのつながりが持てるわけではありません。今回の助成をいただいた事業を大きなきっかけとし、地域の専門職が学びあい、互いに支え合い、そして、地域へと還元することのできるネットワーク構築をスタートさせ、その上でこれから必要とされる地域資源を生み出す力にしていく取り組みを進めていきたいと考えます。今回受講された皆さんが、今後も意欲的なお仕事ができるよう引き続き、仕事上の相談なども行えるようにしていきます。